

2022埼玉県特別支援教育研究会

各教科等を合わせた指導（作業学習）

山中冴子（埼玉大学）


本日の流れ

- 作業学習とは
- 作業学習をめぐる難しさ
- 知的障害教育の追究
- 指導形態の選択について
- キャリア教育の観点から
- 青年期教育の観点から
- 作業学習の計画と留意点について
- 教育課程に「正しく」位置付ける


作業学習を実施するにあたり、
改めて考える必要のあるポイント
の整理を試みます


作業学習とは

「作業学習は、作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、
将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。」

 作業学習の成果は将来の進路等に直結させるものではない。

 中学部では職業・家庭科の目標及び内容を中心とした学びにつながる。

 高等部では職業科、家庭科及び情報科の目標及び内容、専門学科の各教科の目標及び内容を中心とした学びにつながる。

 生活単元学習における道具の準備や後片付け、必要な道具の使い方などがつながる。

(文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』平成30年より)

作業学習をめぐる難しさ

- 特定のスキル獲得に走りがち…
- あらゆる職種に必要な「挨拶」「報告」のスキル獲得に走りがち…
- 同じ行為の繰り返りで、生徒は退屈に…

- 作業への適応を追求するあまり、主体性の育ちが困難に…
- 行動面の評価に偏り、生徒の内面や生活への影響の把握が困難に…

- 「リアル」な環境設定を追求するあまり、学校役割が曖昧に…
- 逆に、「リアル」を追求できずに、作業の必要性が曖昧に…



作業学習の目的・内容/展開・評価・・・・・・・・作業学習は何のために実施するのか？



作業学習における生徒の把握・・・・・・・・作業学習を通しての生徒の学びや発達とは？



学校で実施するということについての理解・・作業所ではなく学校で実施することの意味とは？

作業学習をめぐる難しさ

例：「木工製品をつくる」

→道具の使い方を学ぶ

→素敵な作品を作る…教科別の指導「技術」で可能

あえて作業学習で取り組むことの意義は？

→職業や社会自立に関わる資質・能力とは…

→製品化する意味、販売する意味、仲間と頑張る意味…



同じ「木工」でも教科と作業学習では目的・展開・評価は違う

知的障害教育の追究

◎ 各教科を大切にした学び

- ・教科の系統性から土台となる力を育てる「原教科」
- ・子どもの発達段階に応じた教科内容をつくりだす取り組み
- ・各教科の指導にも活動の要素は多々ある
- ・各教科を大切にしつつ、総合的な学びを教育課程に位置づける
など

知的障害とは


発達とは

◎ 生活を通しての学び

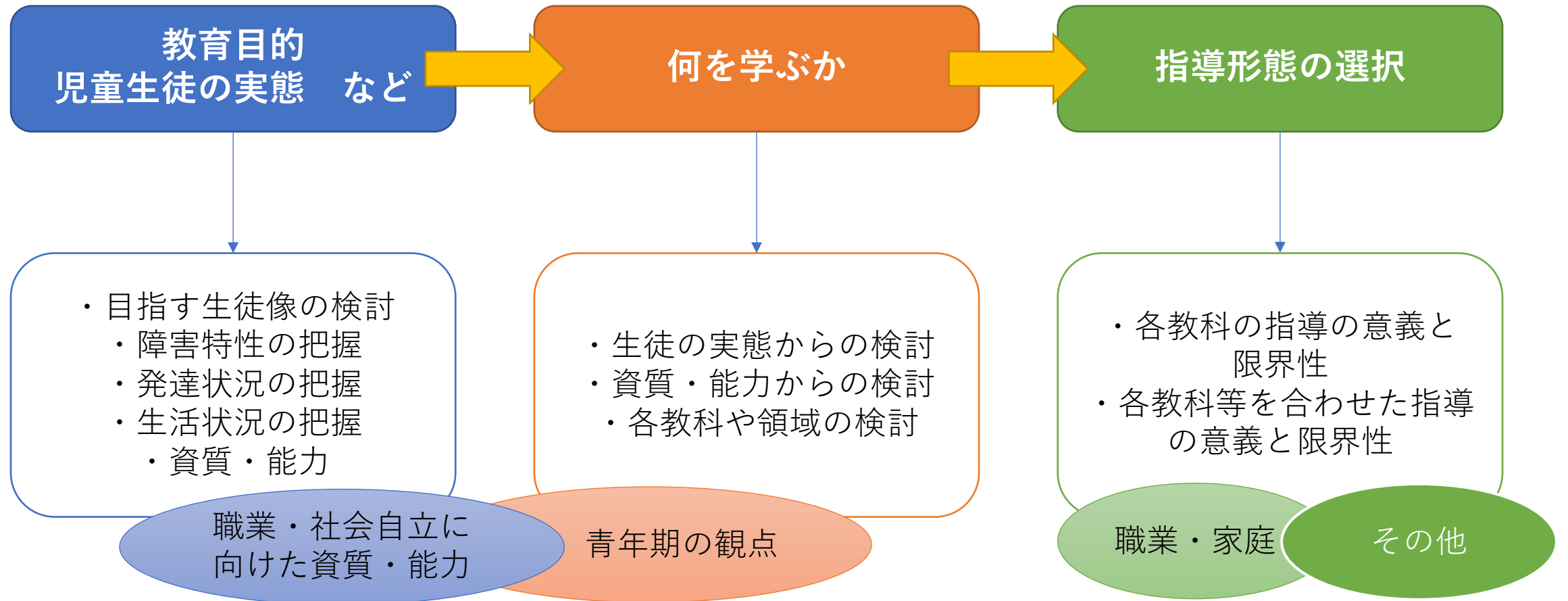
- ・実社会と直接つながる活動をそのまま教育活動とする
- ・各教科の要素は活動の中に未分化に溶け込んでいる
など

教育/学校とは

教科/経験とは

 知的障害のある児童生徒の教育課程論（自主編成）へ

指導形態の選択について



キャリア教育の観点から


◎キャリア教育


2011.1.31中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について」

キャリア：「人が、障害の中で様々な役割を果たす過程で、**自らの役割の価値や自分と役割との関係**を見いだしていく連なりや積み重ね」

キャリア発達：「社会の中で役割を果たすことを通して、**自分らしく生きていくこと**を実現していく過程」

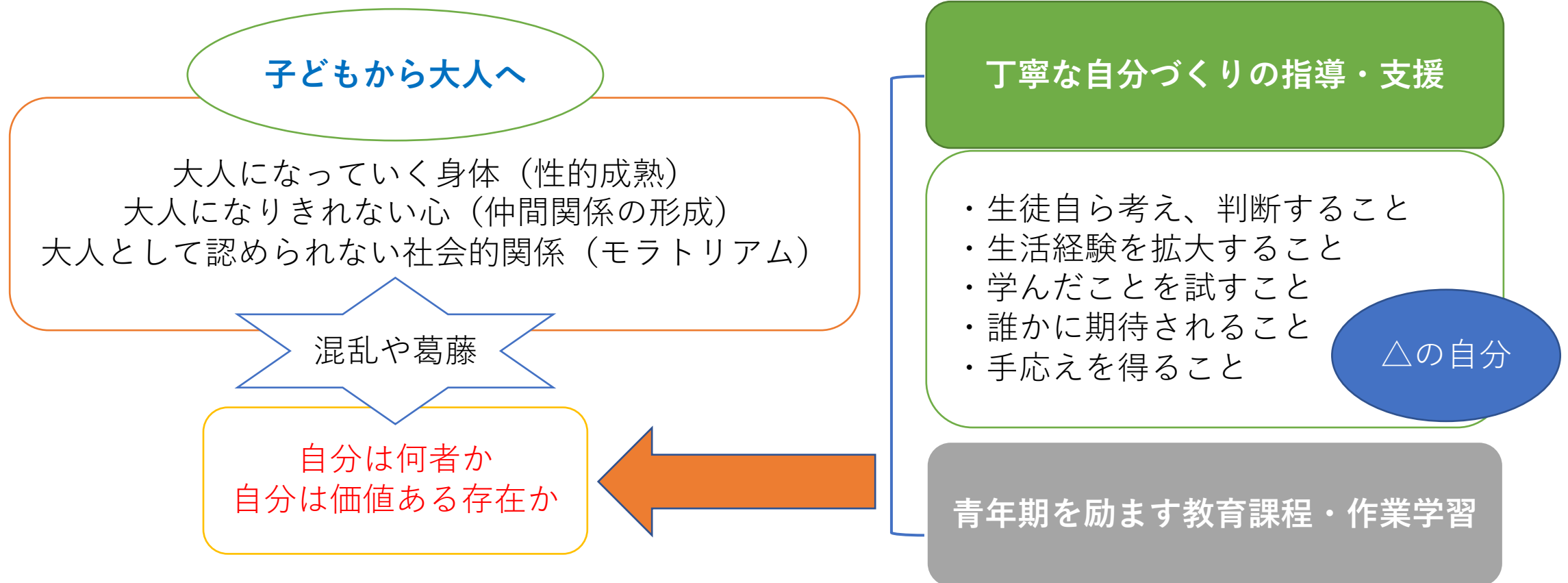
 キャリアとはライフステージ全般を捉えたもの。

 作業学習は特にワークキャリアに関わるもの。

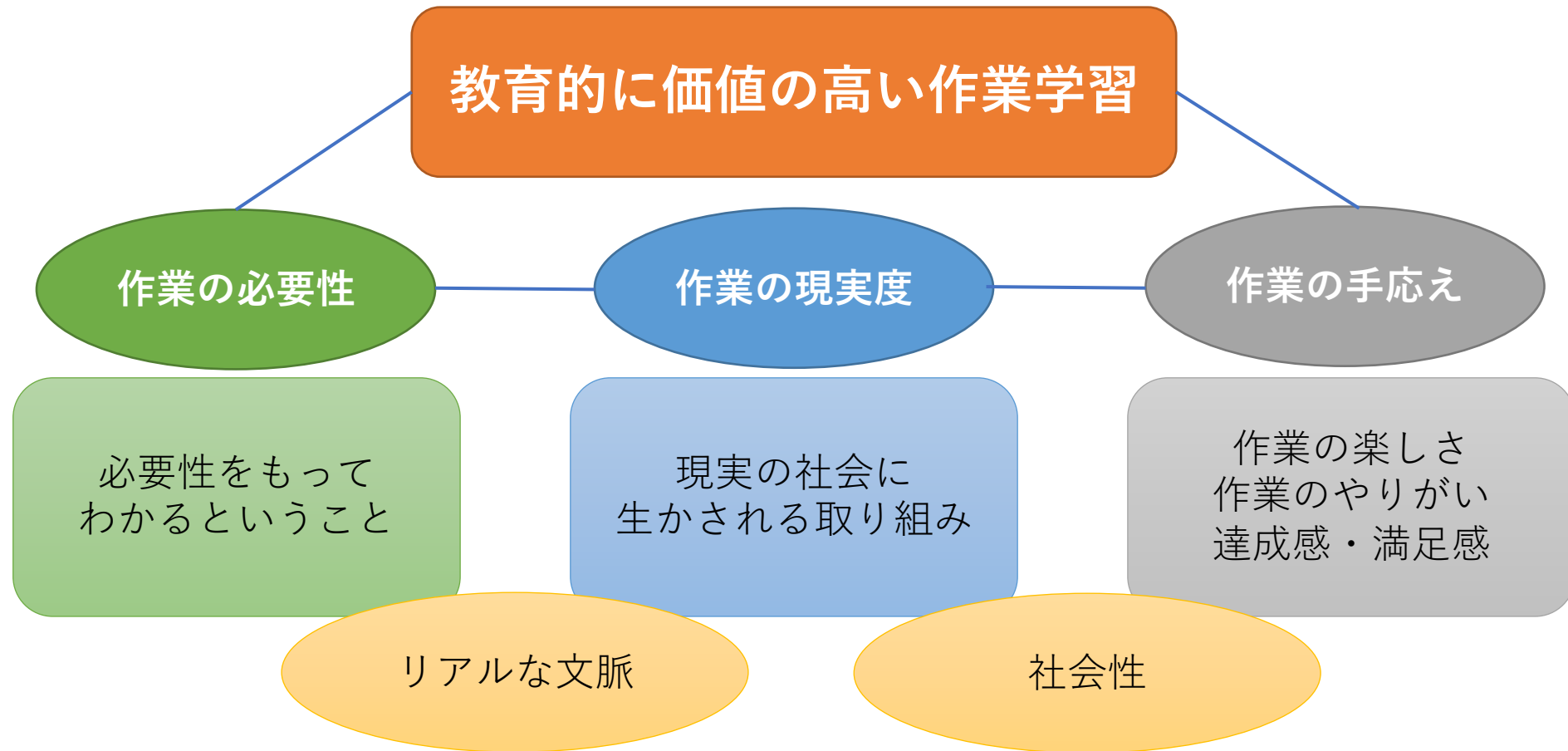
 作業学習は特定のスキル・態度に向けた取り組みではない。

青年期教育の観点から

◎障害のある生徒の青年期



作業学習の計画について




作業をすることそのものの教育的価値とは何か？

作業学習を実施する上での留意点

◎目的をめぐって


- 生徒自身が作業の目的をわかっているか？
- 特定の職業的スキルや態度に固執していないか？

 「どんな作業ができるか」から

「どのような力（スキルにとどまらず）を身につけてほしいか」へ

◎内容/展開をめぐって

- 作業学習としてのテーマとなっているか？
- 生徒自身が夢中になれるものになっているか？
- 生徒自身が立ち止まり、自分のペースや条件を見出す余地があるか？
- 生徒自身が「なぜ失敗したのか」「どうすればうまくいくか」考えているか？
- 集団的取り組み、「～さんのため」といった社会性を有しているか？

 考えること、失敗が許されることを大切に、作業が苦役にならないように

作業学習を実施する上での留意点


◎評価をめぐって

- 作業学習だからこそその目的に沿った評価ができているか？
例：「～を報告することができた」
「～を丁寧に扱うことができた」をめぐって…

- 生徒の自己評価をどう保障しているか？

生徒の実感

生徒が自らわかること

 鍛錬主義/適応主義に陥らない

 考える力、人と関わる力、自分を肯定的に捉えられる力を育てること



キャリア教育へ、青年期教育へ

教育課程に「正しく」位置付ける

◎作業学習は教科と対立するものではない総合的な学習として


- …作業学習だから身に付く（深まる）力
- …作業学習だけでは身につかない（深まらない）力
- …特に後期中等教育3年間でじっくり進路を考えていけるように


◎学校教育でやるべきこと/卒業後にやるべきことの区別とつなぎ

- …青年としての生徒像
- …生徒の発達（青年期）を念頭に土台となる力を検討する

おわりに

 学校として描く生徒像（青年像）の深まり

 「働く意欲」など客観的に捉えにくい成果への挑戦

 青年期の教育実践としての模索を

 教育課程論として耐えうる位置付けを



主要参考文献

- 大久保哲夫他編著『障害児教育実践ハンドブック』旬報社、1991年
- 渡部昭男『障がい青年の自分づくり 青年期教育と二重の移行支援』日本標準、2009年
- 名古屋恒彦編著『アップデート！各教科等を合わせた指導』東洋館出版社、2018年
- 『障害者問題研究』第49巻4号、2022年

ご清聴ありがとうございました。